

2017年12月3日川越教会

## 全世界に愛と平和を

### [聖書] マルコによる福音書16章15～16節

それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに 福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼（バプテスマ）を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。」

### [序] 世界バプテスト祈禱週間

今朝は七五三掛(しめかけ)康博・桜ご夫妻を教会家族にお迎え出来たことを、深く感謝いたします。ご一家の上に、主の祝福が豊かにありますように。

さて先週の日曜日から始まった世界中のバプテスト教会が**世界伝道を覚えて祈る祈禱週間**も、今日で最終日となりました。この祈禱週間の起源は、アメリカ南部バプテストから 1873 年に中国に派遣された最初の婦人宣教師**ロティ・ムー**ンの呼びかけによります。彼女は **40 年間**中国の女子教育と伝道に全てを捧げました。「**もっと宣教師を送って下さい**。30 人欲しいが、せめて 2 人を！もし私に千の命が与えられたら、その全部を中国の婦人に捧げます」と何度も本国の南部バプテスト連盟に訴えましたが、国内の伝道で手一杯だと反応がありません。そこで彼女は諸教会の婦人たちに、世界伝道を支える**婦人会**を作って、クリスマスの 1 ヶ月前に献金を募って欲しいと、**直接**訴えました。するとそれに応える婦人たちが各地で立ち上がり、連盟にも婦人部が出来て、アメリカ全国で**祈禱週間**を守り、**宣教師派遣**と**献金**に取り組むようになったのでした。

**1912 年**中国は大飢饉に見舞われました。毎日大勢が餓死していきます。彼女は自分の**預金を**全て引き出して救援に回しました。年老いてよく働けなくなった自分の食べる分も、飢えている人に回す方がよいと帰国を決意します。そしてその帰国の途中、**1912 年**のクリスマスイブに、**神戸港**に停泊中の船室で **72 才**の生涯を閉じたのでした。ゼロになった彼女の**預金通帳**には「私のような淋しさを味わう宣教師が二度と起こらないように」と書き遺されていたそうです。

今年の日本の世界伝道献金の目標は**4500万円**です。**ルワンダ**で大虐殺が生じたツチ族とフツ族の和解の働きをしている**佐々木宣教師一家**、**シンガポール**の日本語教会を牧会しつつ東南アジア全域の調整役をしている**伊藤宣教師**、インドネシアの神学校で伝道者育成に携わる**野口宣教師一家**、カンボジアの貧しい農村を豊かにするプロジェクトに携わる**嶋田宣教師一家**、またミッションボランティアを各地に送る費用に用いられます。**私たち夫婦**もかつて 10 年間、この献金によってシンガポールの日本人伝道に働かせていただきました。

「1億円献金して、5組以上の宣教師家族を世界伝道に送り出す連盟に」。これが**私の祈り**です。そうしたら国内の教会も大いに祝されます。今国内の教会の力が衰えているのは、世界伝道を後回しにしているからではないでしょうか。川越教会の今年の**献金目標**は**21万円**です。せめてこの目標を超える献金を献げようではありませんか。

## [1] 愚かな戦争を経験して

皆さん、今週の金曜日 12 月8日は、我が国にとって忘れることの出来ない日ですね。今から 76 年前の 1941 年に、日本の海軍連合艦隊の航空機と特殊潜航艇がハワイの**真珠湾基地**を急襲して、米国太平洋艦隊の戦艦5隻とその他の船舶を破壊し、**中国**ばかりでなく、**アメリカ**、**イギリス**、**オランダ**等のアジアに植民地をもつ欧米各国相手に**東南アジア全域**でも**大変な戦争を開始**した日です。

日本は 1937 年7月から盧溝橋事件をきっかけに**日中戦争**を開始し、首都南京をはじめ主要都市を占領しましたが、中国は奥地の重慶に首都を移し、**長期戦**に持ち込みました。**ヨーロッパ**ではナチスドイツが 1939 年に**第二次世界大戦**を起こし、たちどころにヨーロッパを制圧しました。そこで日本は 1940 年に**日独伊三国同盟**を結んで、アジアにおける覇権を確立しようとしていました。

これがフィリピン、シンガポール、インドネシアを植民地とするアメリカ、イギリス、オランダとの関係を悪化させることになり、石油、鉄、錫、ゴム等の供給中止という**経済制裁**を突き付けられました。これでは兵器や軍需品を生産できず、**日中戦争**を継続できません。そこで**東南アジア諸国**を占領して日本の勢力下に置き、必要資源を確保しようとして、愚かな戦争に踏み切ったのでした。日本ではこれを**大東亜戦争**と呼びました。

そして日本軍は、真珠湾攻撃よりも 1 時間半早く**マレー半島**に上陸し、軽戦車隊と自転車部隊で一挙に南下して1月末には**ジョホールバル**に達し、1942 年2月9日に**シンガポール島**に上陸、2月 15 日に全島を占領しました。そして **南方方面総司令部**を置き、伊勢の皇大神宮の分社**昭南神社**を建立して**東南アジア全域**を占領支配する**拠点**にしたのでした。そして治安維持のために、人口の 76%を占める中国人の反日危険分子を、**4万人以上**も殺害粛清しました。

あの時私は小学校3年生でした。シンガポール占領を万歳・万歳と提灯行列で祝いました。私たちは大東亜戦争を「アジアの諸国を**欧米の植民地支配**から解放し、日本を中心に皆で共に栄えていく(**大東亜共栄圏**)のために、天皇陛下のご命令で行う**聖なる戦争**だ」と教えられました。その理想の実現のために 自分も早く立派な軍人になり、天皇陛下に命を捧げ、靖国神社に祀られなければならないと思いました。毎月8日(大召奉戴日)には、池袋の小学校から九段の**靖国神社**に歩いて参拝して、「強い兵隊になり、お国のために死にます」と誓いました。5年生になると靖国神社から東郷神社・乃木神社にも廻り、後に続きますと参拝しました。

しかし大東亜戦争は、翌年のミッドウェー海戦で日本の主力航空母艦4隻と航空機を失い、アメリカに制海空権を奪われてから劣勢となり、**3 年8ヶ月**で **無条件降伏**となりました。そして極東軍事裁判が開かれ、アジア各地での**日本軍による残虐な行為の数々**が明らかにされ、私たちは仰天しました。日本軍はアジアの民衆のために戦ったのではなかったのです。私は日本人の一人として、知らなかったでは済まされない**戦争の責任**を強く覚えるようになりました。

私はどのように生きていったらよいのでしょうか。聖書を読むようになり、友人に誘われて目白ヶ丘

バプテスト教会に通い始めました。聖書を読んで驚いたことには、イエス・キリストは私たち人間を救うためにこの世に来られた神だということです。私たちは天皇をこの世に現れた神だと教えられてきました。この神であられる天皇に命を捧げて仕えることが私たちの人生だったのです。

ではどちらが本当の神なのでしょうか。天皇は自分の名前で戦争を始め、310万人の国民と2000万人をはるかに超えるアジアの人々を死なせました。しかし戦争の責任をとらず、家来たちが死刑になったのに退位すらしませんでした。一方キリストはすべての人を救うために、ご自分から進んで十字架にかかり、死んで下さいました。間違った戦争を始めて大勢の人を殺す罪を犯したのに、その責任をとらなかった天皇。ご自分は罪を犯さないのに罪を犯した私たちを救うために、ご自分が代わって死んで下さったイエス・キリスト。

答えは明白です。私はためらうことなくイエス・キリストこそ私とこの世界を救って下さる本当の神さまだと信じることができました。神さまは私を牧師にして下さいました。私は万歳・万歳と言ってアジアの多くの人々に暗黒の日々を与えた日本人の一人として、戦争の償いをして伝道者の生涯を終えなければと思うようになりました。そしてシンガポールバプテスト連盟の要請に応じて、63才で札幌教会牧師から、シンガポールの日本人伝道に出て行ったのでした。

## [2] シンガポールで学んだこと

8月15日は日本の敗戦記念日、アジアの人々にとっては暗黒時代からの解放記念日です。私たち夫婦がシンガポールに赴任した1995年の8月15日、丁度50周年に当たりましたが、地元の英字新聞の第一面に、「アジアが日本から聞きたい言葉はただ一語“Apologize”（詫びる）なのに、日本人はどうしてそれが言えないのか。天皇裕仁が責任をとらなかったのだから、今の政治家・指導者たちが責任をとろうとしないのは当然だろう」と大きく掲げられていました。もう50年も経っているのです。赴任早々の私は、大変な国に身を置いているのだなと、身も心も引き締まる思いがしたことでした。

私たちは、日本の国内だけに暮しては、ダメです。アジア諸国に出て行って、暮して見なければ、自分の国日本を知ることが出来ません。私はわずか10年しかシンガポールに暮しませんでした。人種のるつぼと言われる国で、日本という国、また日本人についての理解が、少し深まったと思います。

イエス・キリストは、全ての人を罪から救うために、その罪を我が身に引き受けて十字架にかかり、死んで下さいました。そして墓から復活されると、弟子たちにお命じになりました。「全世界に行ってすべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」ユダヤの国内だけでなく、全世界に出て行きなさい——何のために？

福音を宣べ伝えるためです。一人一人が皆違う私たちが、互いに赦し合い、愛し合って、仲良く生きていくために、他人の罪を我が身に引き受けて死ぬ愛の福音を宣べ伝える——これは世界平

和を打ち建てるために不可欠です。

医療や教育の奉仕、農業の開発、産業の発展等々、様々な援助、奉仕も大切です。しかし仲良く助け合って、共に生きていかなければなりません。そのためには、人々が互いに**愛し合わなければなりません**。そのために、**愛の福音**を宣べ伝えることが、何よりも**大切**ではないでしょうか。

**福音の宣教者**を世界の各地に送り出すこと——これは**根本的な働き**です。世界伝道推進のために祈り、献金する大切さを深く覚えて、祈り捧げて参りましょう。宣教師に献身される方が与えられるように祈りましょう。

祈ります:神さま、今日は新しいご夫妻を私たちの教会家族にお加え下さり有難うございました。世界の各地に送り出されている宣教師の貴い働きに心から感謝します。その働きを祝しお守りください。更に宣教師をお起こし下さい。また最優先で世界伝道献金をささげる信仰を、私たちにお与え下さい。主よ、殺し合う戦争を止めて下さい。平和をお与え下さい。十字架の救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン